

週刊 市議会報告

08年3月10日
第1034号
【発行】日本共産党
浦安市議会
市役所控え室
350-1243



元木美奈子
入船4-37-14
355-8526
minamonton@jcom.home.ne.jp



井原めぐみ
東野2-8-13
353-4730
i_megumi@d8.dion.ne.jp



美勢 麻里
北栄2-3-16-203
354-9269
m5mise@jcom.home.ne.jp

浦安市は2月14日、第2期基本計画（素案）を議員全員に公表しました。翌日から市民意見を募集するパブリックコメントを控えて直前に議員に説明したのですが、その後、審議会での審議も残されています。

「このように、基本計画は素案の段階で、市民や議員、審議会委員に示し、意見なども取り入れて計画を策定します。さらに策定後も議会で審議し、やっと正式な基本計画となります。ところが、こうした手続きを経ないままの素案の基本計画にもとづき新年度当初予算を編成し、3月議会に提案していただくことが明らかになりました。」

新年度予算 編成手続きに瑕疵あり！ 議会軽視・民主的手続きをふみにじったやり方

新年度新規事業 40億円 78事業

計画的な行財政運営をするために、地方自治法は「基本構想」の議会議決を規定しています。自治体は、その後、「基本計画」「実施計画」を行政計画として策定する手順になっていますが、これらは議会議決は必要ありません。

しかし、それぞれの段階で情報を公開し、市民の意見を反映させる民主的な手続きは、市民参加条例を定めた浦安市には当然のほうです。従来は手順をふんで提案されてきました。実施計画に基づく新規事業が当初予算には、78事業も盛り込まれ、その予算額は40億円にも上ります。財政運営上も慎重な審査が求められています。

地方議会の活性化策を検討している「地方議会活性化研究会」が基本計画も議決事項とするよう提言していますが、その重要性に着目した結果ではないでしょうか。

日本共産党 手続き上の瑕疵を指摘

日本共産党は2月22日の総括

質疑で「議会軽視、民主的手続きをふみにじったやり方だ」と批判し、「正式な原案にもなっていないたたき台の素案をそのまま予算計上する」という、今回の新年度予算編成および上程そのものに重大な瑕疵がある」と指摘し、市の姿勢を質しました。

中村健副市長は「当初予算編成は、新たな基本計画、および具体的な年度計画としての実施計画の策定後に予算編成に移っていくことが理想であったと思う」「可能な限り理想形に近づけてまいりたい」などと答え、こうした手順を踏む事が正当ではなく、あくまでも理想だなどと



いう考えを示しました。

1999年、浦安市は2020年を目標年とする基本構想を策定。現在はその前半の第1期基本計画をすすめています。新年度から第2期基本計画に移行するため、素案づくりをすすめてきました。

志位質問

日雇いの実態で 政府を追及 動画サイトに7万件のアクセス

日本共産党の志位和夫委員長の国会質問（2月8日）への反響が続く、動画サイトに掲載されるや、その数が爆発的に増え、7万件にもなっています。

質問は、キャノンの100%子会社の長浜キャノンの実態を示して、福田首相に改善を要求したものの。キャノンは日本経団連会長が会長を務める会社でもあります。

朝日新聞も報道 「共産党 ネットで熱」

「人間をモノのように使い捨てにする働かせ方」を告発し「キャノンは1999年の派遣労働の原則自由化以後、8年連続で増収、史上最高の利益をあげ、2007年の純利益は99年の7倍にもなっている」と追及。福田首相も「非正規雇用が増加していることに十分な注意をしなければならない。派遣制度の見直しに政府も取り組む」と約束。

志位質問へのこうした反響を朝日新聞も紹介。「共産党がインターネットで脚光をあびている」「志位氏を称賛する書き込みが後を絶たない」と書きました。